

歴博くらしの植物苑だより

第93回くらしの植物苑観察会 9月23日(土) 13:30～ くらしの植物苑
『柿の民俗』 本館研究部 民俗研究系 常光 徹

くらしの植物苑の活動 毎月第4土曜日 13:30～

奇数月：くらしの植物苑観察会 くらしの植物苑

偶数月：日本の植物文化を語る 本館講堂

くらしの植物苑今週のみどころ 歴博ホームページから入れます。毎週更新

くらしの植物苑だより：トピックスとみどころ 毎週更新

歴博ホームページ <http://www.rekihaku.ac.jp>

出物系統は展示期間終了後も御覧いただけるものがあります。

出物系統：獅子咲



青掬水爪竜葉瑠璃色風鈴獅子咲牡丹

出物系統：采咲



黄握爪竜葉紅風鈴獅子咲牡丹



青水晶斑入渦柳葉淡藤色爪覆輪采咲牡丹

采咲枝垂れ



黄斑入細柳葉紺細切采咲

無弁花



青斑入柳葉枝垂紫采咲



青蜻蛉丸筐葉無弁花牡丹

鹿ヶ谷カボチャ (ウリ科カボチャ属)

ニホンカボチャの一種で、京都地方で栽培されています。カボチャは果柄が果実に接する部分の形、葉形、葉片の形で、セイヨウカボチャ、ニホンカボチャ、ペポカボチャの3種に区別できます。鹿ヶ谷は縦溝がはっきりせず、形状がヒョウタン型なので覚え易い品種です。



トウガン (ウリ科トウガン属)

古くは果実の表面に毛があることからカモウリといい、奈良時代には価格がウリのなかで最高であったともいわれます。また江戸時代にはトウガンを切売りしている様子が画かれているものもあり、よく食べられていた野菜です。果実は貯蔵性にすぐれ、半年間の保存にも耐えられます。



ヘチマ (ウリ科ヘチマ属)

黄色の大きな雌花と雄花をつけます。果実は長さ100 cm、太さ10 cmの円筒形で、外面に浅い縦溝があります。成熟すると果皮の繊維が発達、スポンジ状になります。果実を水につけ、外皮や果肉を腐らせて、たわしをつくります。若い果実はキュウリに似た淡泊な味で、特に沖縄地方の食用ヘチマは繊維の発達が少なく、柔らかいです。



キクイモ (キク科ヒマワリ属)

北米原産の多年草で、茎はまっすぐで、2 mにもなります。茎の下部の葉は対生、上部は互生します。花は先端に10 cmくらいの黄色の筒状、舌状花をつけます。地下茎が膨らんで塊茎をつくることからキクイモといいます。果糖製造、アルコール発酵の原料にします。繁殖力が強く、北海道には野生化したものが多いそうです。



モリアザミ (キク科アザミ属)

ゴボウアザミ、キクゴボウなどともいわれます。モリアザミの根は垂直に伸び、太く食用になり、山ゴボウ、菊ゴボウは栽培したモリアザミの根をみそ漬けにしたものです。

